

都道府県事業実施状況報告書及び評価報告書

整備事業

I 産地競争力の強化を目的とする取組用

(岡山県 平成28年度)

市町村名	事業実施主体名	メニュー① (対象・作物・畜種等名)	成果目標の具体的な内容①	事業実施後の状況①						成果目標の具体的な実績①	メニュー② (対象・作物・畜種等名)	成果目標の具体的な内容②	事業実施後の状況②						成果目標の具体的な実績②	事業内容 (工種、施設区分、構造、規格、能力等)	事業費(円)	負担区分(円)				完了年月日	事業実施主体の評価	都道府県の評価	備考
				計画時	1年後	2年後	3年後	目標値	達成率				計画時	1年後	2年後	3年後	目標値	達成率				交付金	都道府県費	市町村費	その他				
津山市	津山農業協同組合	土地利用型作物(稲)	事業実施地区における1等比率を事業実施年度の前7中5平均の値と比べて10.0ポイント増加	(平成18-24年の直近7中5平均) 60.3%	(平成26年) 72.0%	(平成27年) 74.2%	(平成28年) 74.0%	(平成28年) 70.3%	137%	事業実施地区における1等比率を事業実施年度の前7中5平均の値と比べて13.7ポイント向上した	土地利用型作物(稲)	事業実施地区における高温耐性品種「きぬむすめ」の作付割合を5.0ポイント増加	(平成25年) 5.9%	(平成26年) 9.8%	(平成27年) 12.7%	(平成28年) 14.8%	(平成28年) 10.9%	178.0%	事業実施地区における高温耐性品種「きぬむすめ」の作付割合が8.9ポイント向上した	共同育苗施設 ・温湯消毒施設一式 ・種消毒装置1台(480kg/h) ・育苗機械一式(播種装置1台(1000箱/h)) ・緑化ハウス806.96㎡ ・硬化ハウス2404.8㎡	258,895,440	119,859,000	0	59,929,000	79,107,440	H27.2.25	高齢化、米価の下落等により、水稻の作付面積は減少したが、施設整備による優良苗の安定供給及び高温耐性品種「きぬむすめ」の作付推進により、「きぬむすめ」の生産量は増加し、「きぬむすめ」の作付面積割合及び作付面積の目標は達成した。 また、飼料米の作付拡大等に伴い主食用米の集荷量及び一等米の数量は目標に届かなかったが、一等米比率は目標を達成した。 今後は、農家への仮渡し金の見直しを行なうとともに、一部品種での買取制度を実施し集荷率の向上を図る。	一等米比率及び高温耐性品種「きぬむすめ」の作付面積割合に係る目標について、計画どおり達成しており、産地の供給力強化に寄与した。 今後も「きぬむすめ」の生産量を増やし、県の代表良質米の一つとして育て上げるため、関係機関が一体となって指導を行う。	
倉敷市	岡山西農業協同組合	果樹(もも)	当該地域の桃の全出荷量に占めるブランド品「岡山白桃」の出荷量の割合を9.03ポイント増加	(平成22-26年の5中3年平均) 52.59%	(平成26年) 「岡山白桃」出荷量292t/全出荷量532t) 54.89%	(平成27年) 「岡山白桃」出荷量215t/全出荷量417t) 51.56%	(平成28年) 「岡山白桃」出荷量207.00t/全出荷量406t) 50.99%	(平成28年) 「岡山白桃」出荷量358.00t/全出荷量581t) 61.62%	-17.7%	当該地域の桃の全出荷量に占めるブランド品「岡山白桃」の出荷量の割合を1.6ポイント減少した。	果樹(もも)	当該地域の桃の全出荷量のうち果樹産地構造改革計画における振興品種の出荷量の割合を15.05ポイント増加	(平成22-26年の5中3年平均) 47.26%	(平成26年) (振興品種出荷量274.18t/全出荷量580.15t) 34.02%	(平成27年) (振興品種出荷量119t/全出荷量417t) 28.54%	(平成28年) (振興品種出荷量201.00t/全出荷量406t) 49.51%	(平成28年) (振興品種出荷量362.00t/全出荷量581t) 62.31%	15.0%	当該地域の桃の全出荷量のうち果樹産地構造改革計画における振興品種の出荷量の割合が2.25ポイント増加した。	集出荷貯蔵施設 ・選果施設一式(選果機2条ライン・重量測定機・精度センサー)選果能力最大18,000玉/hr)	120,960,000	56,000,000	0	0	64,960,000	H28.1.12	フリートレー方式の選果機の導入により、桃の出荷品質は向上し、傷みの割合が減り、桃の出荷品質は向上した。 また、栽培面積は維持しており、品種転換も進んでいる。 梅雨時の長雨等により変型果、病害果が多発し、さらにH27年の台風被害により出荷量が減り、枝折れやせん孔細菌病の多発などの影響が2か年に及んだことから目標未達となっているが、県農業普及指導センター等が中心となり、天候不順にも対応できる栽培・防除指導を徹底することで出荷量が回復してきており、改善が見込まれている。 今後、さらに振興品種等の割合を増やすため、県補助事業等を活用した苗木の導入支援を進めるとともに、JAでは出荷量及び利用率向上のため、部会員等へ出荷依頼文書の配布や下位等級の品について選果機利用料の見直しを行う。 さらに、JA職員や理事で生産者に出荷依頼の訪問活動も行う。	選果機の導入により、桃の出荷品質は向上し、品種転換も進んでいる。 梅雨時の長雨等により変型果、病害果が多発し、さらにH27年の台風被害により出荷量が減り、枝折れやせん孔細菌病の多発などの影響が2か年に及んだことから目標未達となっているが、県農業普及指導センター等が中心となり、天候不順にも対応できる栽培・防除指導を徹底することで出荷量が回復してきており、改善が見込まれている。 今後、さらに振興品種等の割合を増やすため、県補助事業等を活用した苗木の導入支援を進めるとともに、JAでは出荷量及び利用率向上のため、部会員等へ出荷依頼文書の配布や下位等級の品について選果機利用料の見直しを行う。 さらに、JA職員や理事で生産者に出荷依頼の訪問活動も行う。	
都道府県平均達成率	78.1%	総合所見	一等米比率及び高温耐性品種「きぬむすめ」の作付面積割合の向上を目指した地区については、目標が達成され、産地の供給力が向上した。 もものブランド品の出荷割合及び振興品種の出荷量割合の向上を目指した地区においては、天候の影響で目標が達成できなかったが、産地の維持・発展のため、関係機関が連携して目標達成に向けた指導を強化する。																										